



## PCLI を使用した GE\_XP、10GE\_XP、 GE\_XPE、および 10GE\_XPE カードの設定

この章では、Pseudo Command Line Interface (PCLI) を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、および 10GE\_XPE カードをプロビジョニングする方法について説明します。



(注) この章で説明されている Cisco ONS 15454 プラットフォームに関する手順およびタスクは、特に明記されていない限り、Cisco ONS 15454 M2 プラットフォームおよび Cisco ONS 15454 M6 プラットフォームにも適用されます。



(注) 別途指定されていない限り、「ONS 15454」は ANSI と ETSI の両方のシェルフ アセンブリを指します。

## はじめる前に

次の手順を実行する前に、すべてのアラームをよく調査し、問題となる状況をすべて解消してください。必要に応じて、『Cisco ONS 15454 DWDM Troubleshooting Guide』を参照してください。



注意

TXP および MXP カードのプロビジョニングは、サービスに影響することがあります。すべての変更は、スケジュールされたメンテナンス時間中に行ってください。

ここでは、主要手順 (NTP) を示します。適切なタスクの手順 (DLP) を参照してください。

- 「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2)。
- 「NTP-G223 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポリシーを作成する」(P.B-4)。
- 「NTP-G216 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのリンク完全性をイネーブルにする」(P.B-12)。
- 「NTP-G220 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの IGMP スヌーピングをイネーブルにする」(P.B-15)。
- 「NTP-G217 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの IGMP 高速脱退処理をイネーブルにする」(P.B-16)。

- 「NTP-G218 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのマルチキャスト ルータ ポートを設定する」(P.B-17)。
- 「NTP-G219 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの IGMP レポート抑制をイネーブルにする」(P.B-18)。
- 「NTP-G224 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの MVR をイネーブルにする」(P.B-19)。
- 「NTP-G225 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの SVLAN レート制限をプロビジョニングする」(P.B-14)。
- 「NTP-G226 PCLI を使用する GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの SVLAN 上の MAC アドレス ラーニングをイネーブルにする」(P.B-11)。
- 「NTP-G227 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの SVLAN を作成する」(P.B-20)。
- 「NTP-G282 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのチャンネル グループを設定する」(P.B-24)。
- 「NTP-G286 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの EFM を設定する」(P.B-27)。
- 「NTP-G284 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの CFM を設定する」(P.B-29)。
- 「NTP-G288 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの REP を設定する」(P.B-33)。

## NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス

目的	この手順では、CTC または Telnet を使用して PCLI テキスト インターフェイスにアクセスする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上

**ステップ 1** PCLI にアクセスするノードで「DLP-G46 CTC へのログイン」(P.3-31) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。

**ステップ 2** PCLI には、次の方法でアクセスできます。

- CTC を使用して PCLI テキスト インターフェイスにアクセスするには、[Tools] > [Open Pseudo IOS Connection] メニュー オプションを選択するか、ネットワーク ビュー内のノードを右クリックして [Open Pseudo IOS Connection] を選択します。
- コマンド プロンプトから PCLI にアクセスするには、ノード ビューの [Provisioning] > [Security] > [Pseudo IOS Access] で PCLI アクセス用に設定されているアクセス ステートに応じて、Telnet または SSH を使用できます。アクセス ステートがデフォルトのステートである非セキュアに設定されている場合、次の手順で示すように、Telnet を使用して PCLI セッションを確立できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<pre>telnet &lt;node ip or node name&gt; &lt;port number&gt;</pre> <p>例： telnet 10.76.148.176 65000 MSTP-176&gt;</p>	<p>Telnet を使用して PCL I セッションを確立します。</p> <p>(注) 非セキュア モードのデフォルトのポート番号は 65000 です。ポート番号は、CTC でプロビジョニングできます。このようにするには、ノード ビューに移動し、[Provisioning] &gt; [Security] &gt; [Pseudo IOS Access] の順にクリックします。</p>
ステップ2	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176&gt; exit</p>	<p>PCL I テキスト インターフェイスを終了します。</p>
ステップ3	<pre>enable shelf/slot</pre> <p>例： MSTP 176# enable 1/12</p>	<p>他のコンフィギュレーション モードを開始できる位置から特権 EXEC モードを開始します。特権 EXEC モードでは、いくつかの show コマンドも使用できます。</p>
	<p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	—

- アクセス ステートがセキュアに設定されている場合は、次の手順で示すように、Open SSH などの SSH クライアントを使用して、PCL I セッションを確立できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<pre>ssh -p &lt;node ip or node name &gt; &lt;port number&gt;</pre> <p>例： ssh -p 10.76.148.194 64000 MSTP-176&gt;</p>	<p>SSH を使用して PCL I セッションを確立します。</p> <p>(注) セキュア モードのデフォルトのポート番号は 64000 です。ポート番号は、CTC でプロビジョニングできます。このようにするには、ノード ビューに移動し、[Provisioning] &gt; [Security] &gt; [Pseudo IOS Access] の順にクリックします。</p>
ステップ2	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176&gt; exit</p>	<p>PCL I テキスト インターフェイスを終了します。</p>
ステップ3	<pre>enable shelf/slot</pre> <p>例： MSTP 176&gt; enable 1/12</p>	<p>他のコンフィギュレーション モードを開始できる位置から特権 EXEC モードを開始します。特権 EXEC モードでは、いくつかの show コマンドも使用できます。</p> <p>PCL I コマンドの詳細については、『Cisco ONS DWDM Reference Manual』を参照してください。</p>
	<p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	—

ここでやめてください。この手順はこれで完了です。

# NTP-G223 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポリシーを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのポリシーを作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

**ステップ 1** ポリシーを作成するノードで「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2**に進みます。

**ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

- 「DLP-G517 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの入力ポリシーを作成する」(P.B-5)
- 「DLP-G518 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの出力ポリシーを作成する」(P.B-6)
- 「DLP-G519 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのサービス インスタンス ポリシーを作成する」(P.B-7)
- 「DLP-G520 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポートに入力ポリシーを適用する」(P.B-8)
- 「DLP-G521 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポートに出力ポリシーを適用する」(P.B-9)
- 「DLP-G522 PCLI を使用して GE\_XPE または 10GE\_XPE カードのポートにサービス インスタンス ポリシーを適用する」(P.B-10)

ここでやめてください。この手順はこれで完了です。

# DLP-G517 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの入力ポリシーを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの入力ポリシーの一部として、CIR、EIR、CBS、EBS、および入力 COS パラメータを作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) CIR、EIR、CBS、EBS、および入力 COS パラメータを作成すると、ノード内のこれらのタイプの他のカード間でポリシーを使用できます。「DLP-G520 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポートに入力ポリシーを適用する」(P.B-8) のタスクを参照してください。

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<code>configure terminal</code>  例： <code>MSTP 176# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<code>policy-map name</code>  例： <code>MSTP 176# (config) policy-map pmap</code> <code>MSTP-176# (config-pmap)#</code>	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<code>police cir percent % bc bytes be bytes</code>  例： <code>MSTP-176(config-pmap)#police cir</code> <code>percent 20 bc 64 be 128</code>	CIR、EIR、CBS、および EBS の値を設定します。
<b>ステップ 4</b>	<code>set cos number</code>  例： <code>MSTP 176 (config-pmap)# set cos 6</code>	入力 COS パラメータを設定します。
<b>ステップ 5</b>	<code>exit</code>  例： <code>MSTP-176(config-pmap)# exit</code>	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

# DLP-G518 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの出力ポリシーを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの出力ポリシーを作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) 出力ポリシーを作成すると、ノード内のこれらのタイプの他のカード間でポリシーを使用できます。  
[「DLP-G521 PCLI を使用して GE\\_XP、10GE\\_XP、GE\\_XPE、または 10GE\\_XPE カードのポートに出力ポリシーを適用する」\(P.B-9\) のタスク。](#)

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	policy-map name  例： MSTP 176# (config) policy-map pmap MSTP-176# (config-pmap)#	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	wrr-queue cos-map <queue-id> <cos1> <cosn>  例： MSTP-176(config-pmap)#wrr-queue cos-map 1 1	キュー ID を特定の COS にマップします。
ステップ 4	wrr-queue <queue-id> weight <1-16> bandwidth percent <%>  例： MSTP 176 (config-pmap)# wrr-queue 1 weight 2 band per 90	キューの WRR および帯域幅の値を設定します。
ステップ 5	exit  例： MSTP-176(config-pmap)# exit	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

# DLP-G519 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのサービス インスタンス ポリシーを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カード上の CVLAN 用の COS を定義するために使用可能なサービス インスタンス ポリシーを作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注)

サービス インスタンス ポリシーを作成したら、ノード内のこれらのタイプの他のカード間でポリシーを使用できます。「[DLP-G522 PCLI を使用して GE\\_XPE または 10GE\\_XPE カードのポートにサービス インスタンス ポリシーを適用する](#)」(P.B-10) のタスク

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<pre>policy-map name</pre> <p>例： MSTP 176# (config) policy-map pmap MSTP-176# (config-pmap)#</p>	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<pre>set cos &lt;number&gt;</pre> <p>例： MSTP 176 (config-pmap)# set cos 6</p>	COS 値を設定します。
<b>ステップ 4</b>	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-pmap)# exit</p> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	ポリシー マップ コンフィギュレーション モードを終了します。
		—

## DLP-G520 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポートに入力ポリシーを適用する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのポートに入力ポリシーを適用する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">DLP-G517 PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの入力ポリシーを作成する</a>」(P.B-5) を実行します。</li> <li>GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードでは、入力ポリシーを適用する前に、ポートがシャットダウンされていることを確認します。</li> </ul>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<pre>interface type port</pre> <p>例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<pre>service-policy input &lt;name&gt;</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# service-pol input ingresspolicy1</p>	指定された入力ポリシーをポートにマップします。
<b>ステップ 4</b>	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if# exit</p> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
		—



# DLP-G521 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのポートに出力ポリシーを適用する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのポートに出力ポリシーを適用する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>「DLP-G518 PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの出力ポリシーを作成する」(P.B-6) を実行します。</li> </ul>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<pre>interface type port</pre> <p>例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<pre>service-policy output &lt;name&gt;</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# service-policy output egresspolicy1</p>	指定された出力ポリシーをポートにマップします。
<b>ステップ 4</b>	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if)# exit</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## DLP-G522 PCLI を使用して GE\_XPE または 10GE\_XPE カードのポートにサービス インスタンス ポリシーを適用する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XPE または 10GE_XPE カードのポートにサービス インスタンス ポリシーを適用する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>「DLP-G519 PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのサービス インスタンス ポリシーを作成する」(P.B-7) を実行します。</li> <li>GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードでは、出力ポリシーを適用する前に、ポートがシャットダウンされていることを確認します。</li> </ul>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



**(注)** サービス インスタンスは、PCLI を使用してポート上で編集できません。サービス インスタンス ポリシーは、サービス インスタンス作成時に指定する必要があります。

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<pre>configure terminal</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<pre>interface type port</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if#</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<pre>service instance ethernet vlan</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176# (config-if) service instance ethernet vlan1 MSTP-176# (config-if-srv)#</p>	サービス インスタンス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 4</b>	<pre>rewrite ingress tag translate 1-to-1 &lt;multipurpose vlan&gt; push dot1q &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176 (config-if-srv)# rewrite ingress tag translate 1 1 push dot1 1</p>	ポート上の CVLAN および SVLAN の関係を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<pre>service policy input &lt;policy name&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>MSTP 176 (config-if-srv)# service-policy input serviceinstancepolicy1</pre>	ポートに対して指定したサービス インスタンス ポリシーを関連付けます。
ステップ 6	<pre>exit</pre> <p>例 :</p> <pre>MSTP-176(config-if-srv)# exit MSTP-176(config-if)#</pre>	サービス インスタンス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 7	<pre>exit</pre> <p>例 :</p> <pre>MSTP-176(config-if)# exit</pre> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
		—

## NTP-G226 PCLl を使用する GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの SVLAN 上の MAC アドレス ラーニングをイネーブルにする

目的	この手順では、PCLl を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの MAC アドレス ラーニングをイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLl テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLl の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** MAC アドレス ラーニングをイネーブルにするノードで、[「NTP-G222 PCLl テキスト インターフェイスへのアクセス」\(P.B-2\)](#) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

## ■ はじめる前に

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable shelf/slot  例： MSTP 176# enable 1/12	設定するカードのシェルフおよびスロットを選択します。
ステップ 2	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	mac-address-table learning vlan <vlan-id>  例： MSTP-176(config)# mac-address-table learning vlan 2	MAC アドレスの学習に基づいてインターフェイスをイネーブルにします。各 SVLAN で繰り返しコマンドを実行して、MAC アドレス ラーニングをイネーブルにします。
ステップ 4	mac-address-table learning interface <type> <port>  例： MSTP-176(config)# mac-address-table learning gigabitethernet 2	MAC アドレスの学習に基づいてインターフェイスをイネーブルにします。各 SVLAN で繰り返しコマンドを実行して、MAC アドレス ラーニングをイネーブルにします。
ステップ 5	exit  例： MSTP-176(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	元の手順 (NTP) に戻ります。	—

## NTP-G216 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのリンク完全性をイネーブルにする

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのリンク完全性をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** リンク完全性をイネーブルにするノードで「NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<pre>configure terminal</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<pre>vlan profile name</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176 (config)# vlan profile profile4 MSTP 176 (config-profile)</p>	VLAN プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<pre>link integrity</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176 (config-profile) link integrity</p>	リンク完全性をイネーブルにします。
<b>ステップ 4</b>	<pre>exit</pre> <p><b>例 :</b> MSTP-176(config-profile)# exit</p>	VLAN プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>ステップ 5</b>	<pre>vlan profile name vlan svlanid interface type port</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176 (config)# vlan profile a vlan 2 interface gigabitethernet 2</p>	ポート上の SVLAN に SVLAN プロファイルを関連付けます。
<b>ステップ 6</b>	<pre>interface type port</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176 (config)# interface gigabitethernet 2</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 7</b>	<pre>link integrity action {none   squelch   propagate}</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176 (config-if)# link integrity action squelch</p>	UNI ポートで終端する SVLAN で AIS パケットを受信すると、UNI ポートでスケルチ処理が実行されます。
<b>ステップ 8</b>	<pre>exit</pre> <p><b>例 :</b> MSTP-176(config-profile)# exit</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>ステップ 9</b>	元の手順 (NTP) に戻ります。	—

# NTP-G225 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの SVLAN レート制限をプロビジョニングする



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** SVLAN レート制限をプロビジョニングするノードで「[NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス](#)」(P.B-2) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<pre>configure terminal</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176# configure terminal </p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<pre>vlan profile name</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176 (config)# vlan profile profile4 MSTP 176 (config-profile) </p>	VLAN プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<pre>police cir percent &lt;%&gt; pir percent &lt;%&gt; bc &lt;byte&gt; be &lt;byte&gt;</pre> <p><b>例:</b> MSTP-176(config-profile)# police cir percent 20 bc 64 be 128 </p>	入力レート制限を入力します。
<b>ステップ 4</b>	<pre>exit</pre> <p><b>例:</b> MSTP-176(config-profile)# exit </p>	VLAN プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>ステップ 5</b>	<pre>vlan profile name vlan svlanid interface type port</pre> <p><b>例:</b> MSTP 176 (config)# vlan profile a vlan 2 interface gigabitethernet 2 </p>	ポート上の SVLAN に SVLAN プロファイルを関連付けます。
<b>ステップ 6</b>	元の手順 (NTP) に戻ります。	—

# NTP-G220 PCL I を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの IGMP スヌーピングをイネーブルにする

目的	この手順では、PCL I を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの IGMP スヌーピングをイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCL I の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** IGMP スヌーピングをイネーブルにするノードで「NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス」(PB-2) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<code>configure terminal</code>  例： MSTP 176# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<code>vlan &lt;vlan-id&gt;</code>  例： MSTP-176# <code>(config)# vlan 2</code> MSTP-176# <code>(config-vlan)#</code>	VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	<code>ip igmp snooping</code>  例： MSTP-176(config-vlan)# <code>ip igmp snooping</code>	IGMP スヌーピングをイネーブルにします。  (注) IGMP スヌーピングをディセーブルにするには、 <b>no ip igmp snooping</b> コマンドを使用します。
<b>ステップ 4</b>	<code>exit</code>  例： MSTP-176(config-vlan)# <code>exit</code>	VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>ステップ 5</b>	元の手順 (NTP) に戻ります。	—

# NTP-G217 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの IGMP 高速脱退処理をイネーブルにする

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの高速脱退処理をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** IGMP 高速脱退処理をイネーブルにするノードで「[NTP-G222 PCLI テキストインターフェイスへのアクセス](#)」(P.B-2) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2**に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	vlan <vlan-id>  例： MSTP-176# (config)# vlan 2 MSTP-176# (config-vlan)#	VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	ip igmp snooping immediate-leave  例： MSTP-176(config-vlan)# ip igmp snooping immediate-leave	IGMP 高速脱退処理をイネーブルにします。  (注) 高速脱退処理をディセーブルにするには、 <b>no ip igmp snooping immediate-leave</b> コンフィギュレーション コマンドを使用します。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-vlan)# exit	VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—



# NTP-G218 PCL I を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのマルチキャスト ルータ ポートを設定する

目的	この手順では、PCL I を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのマルチキャスト ルータ ポートを設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCL I の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** マルチキャスト ルータ ポートを設定するノードで「[NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス](#)」(P.B-2) のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>例 :</b> <code>MSTP 176# configure terminal</code>	
<b>ステップ 2</b>	<code>interface {gigabitethernet   tengigabitethernet} port</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>例 :</b> <code>MSTP-176(config)# interface gigabitethernet 1</code> <code>MSTP-176(config-if)#</code>	
<b>ステップ 3</b>	<code>ip igmp snooping mrouter</code>	ポートのマルチキャスト ルータ ポート機能をイネーブルにします。 <b>(注)</b> ポートのマルチキャスト ルータ機能をディセーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、 <b>no ip igmp snooping mrouter</b> コマンドを使用します。
	<b>例 :</b> <code>MSTP-176(config-if)# ip igmp snooping mrouter</code>	
<b>ステップ 4</b>	<code>exit</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	<b>例 :</b> <code>MSTP-176(config-if)# exit</code>	
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

# NTP-G219 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの IGMP レポート抑制をイネーブルにする

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの IGMP レポート抑制をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

**ステップ 1** レポート抑制をイネーブルにするノードで「[NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス \(P.B-2\)](#)」のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

**ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	vlan id  例： MSTP-176# (config)# vlan 2 MSTP-176# (config-vlan)#	VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	ip igmp snooping report-suppression  例： MSTP-176(config-vlan)# ip igmp snooping report-suppression	IGMP スヌーピングのレポート抑制をグローバルにイネーブルにします。  (注) レポート抑制をディセーブルにするには、VLAN コンフィギュレーション モードで <b>no ip igmp snooping report-suppression</b> を使用します。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-vlan)# exit	VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

# NTP-G224 PCL I を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの MVR をイネーブルにする

目的	この手順では、PCL I を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの MVR をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCL I の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** MVR をイネーブルにするノードで「[NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス \(P.B-2\)](#)」のタスクを実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	mvr group ip-address count  例： MSTP-176(config)# mvr group 228.1.23.4	MVR をイネーブルにする必要のあるマルチキャスト グループ アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。count パラメータを使用して、グループ数を制限します。  (注) GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードでは、最大 256 個の MVR マルチキャスト グループを設定できます。  (注) MVR は、ここで設定したマルチキャスト グループだけに適用されます。この範囲以外のマルチキャスト グループの場合、通常の IGMP 処理が発生します。  (注) count は、1 ~ 256 の範囲で設定できます。単一グループで MVR をイネーブルにするには、1 を使用します。IP アドレス範囲は、224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 である必要があります。
<b>ステップ 3</b>	mvr vlan vlan-id  例： MSTP-176(config)# mvr vlan 2	マルチキャスト データを受信する VLAN を指定します。すべてのポートはこの VLAN に属する必要があります。指定できる VLAN 範囲は 1 ~ 4093 です。

## ■ はじめる前に

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<pre>mvr</pre> <p>例： MSTP-176(config)# mvr</p>	<p>MVR をイネーブにします。</p> <p>(注) MVR をディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで <b>no mvr</b> を使用します。</p>
ステップ 5	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if)# exit</p>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 6	元の手順 (NTP) に戻ります。	—

## NTP-G227 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの SVLAN を作成する

目的	この手順では、PCLI 使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カード上の SVLAN を作成または削除する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	なし
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** SVLAN を作成するノードで「[NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス](#)」(P.B-2) の [タスク](#) を実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 2	<pre>vlan &lt;vlan-id&gt;</pre> <p>例： MSTP-176# (config)# vlan 2</p>	<p>VLAN を作成します。</p> <p>(注) SVLAN を削除するには、グローバル コンフィギュレーション モードで <b>no config vlan &lt;vlan-id&gt;</b> コマンドを使用します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	exit  例： MSTP-176(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## NTP-G228 PCLI を使用してサービス インスタンスを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの UNI ポートおよび NNI ポート上の VLAN コンフィギュレーションの定義に使用するサービス インスタンスを作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	サービス インスタンスに含める SVLAN を作成します。
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** SVLAN を作成するノードで「[NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス](#)」(P.B-2) の [タスク](#) を実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface type port  例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	service instance ethernet vlan  例： MSTP 176# (config-if)# service instance ethernet vlan10 MSTP-176# (config-if-srv)#	サービス インスタンス コンフィギュレーション モードを開始します。  ポートが UNI として設定されている場合は、 <a href="#">ステップ 4</a> へ進みます。ポートが NNI ポートとして設定されている場合は、 <a href="#">ステップ 14</a> へ進みます。

## ■ はじめる前に

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<pre>encapsulation default</pre> <p><b>例：</b> MSTP 176# (config-if-srv)# encapsulation default</p>	<p>トランスペアレント モードでポートを設定します。</p> <p><b>(注)</b> このコマンドを実行する前に、ポートがディセーブル ステートになっている必要があります。</p> <p><b>(注)</b> encapsulation コマンドと rewrite コマンドをペアで実行する必要があります。どの rewrite コマンドよりも、encapsulation コマンドを先に実行する必要があります。ポート単位に encapsulation コマンドと rewrite コマンドのペアを 1 つだけ実行できます。</p>
ステップ 5	<pre>rewrite ingress tag push dot1q &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例：</b> MSTP 176# (config-if-srv)# rewrite ingress tag push dot1q 10</p>	<p><b>(注)</b> このコマンドを実行する前に、ポートがディセーブル ステートになっている必要があります。</p> <p><b>(注)</b> encapsulation コマンドと rewrite コマンドをペアで実行する必要があります。どの rewrite コマンドよりも、encapsulation コマンドを先に実行する必要があります。ポート単位に encapsulation コマンドと rewrite コマンドのペアを 1 つだけ実行できます。</p>
ステップ 6	<pre>encapsulation dot1q &lt;first cvlan&gt; &lt;last cvlan&gt;</pre> <p><b>例：</b> MSTP 176# (config-if-srv)# encapsulation dot1q 20 30</p>	<p>選択的追加モードで特定の SVLAN にマップされた CVLAN の範囲内のポートを設定します。</p> <p>20 ~ 30 (20 と 30 を含む) の範囲の VLAN ID を持つタグ付きフレームが照合されます。</p>
ステップ 7	<pre>rewrite ingress tag push dot1q &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例：</b> MSTP 176# (config-if-srv)# rewrite ingress tag push dot1q 10</p>	<p><b>(注)</b> このコマンドを実行する前に、ポートがディセーブル ステートになっている必要があります。</p> <p><b>(注)</b> encapsulation コマンドと rewrite コマンドをペアで実行する必要があります。どの rewrite コマンドよりも、encapsulation コマンドを先に実行する必要があります。ポート単位に encapsulation コマンドと rewrite コマンドのペアを 1 つだけ実行できます。</p> <p><b>(注)</b> 複数の encapsulation コマンドと rewrite コマンドを同じサービス インスタンスの一部として設定できます。</p>
ステップ 8	<pre>encapsulation dot1q &lt;first cvlan&gt; &lt;last cvlan&gt;</pre> <p><b>例：</b> MSTP 176# (config-if-srv)# encapsulation dot1q 20 20</p>	<p>選択的変換モードでポートを設定します。</p> <p>VLAN ID 20 のタグ付きフレームが照合されます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<pre>rewrite ingress tag translate 1-to-1 &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# rewrite ingress tag translate 1 10</p>	<p>SVLAN タグ値が 10 の入力タグ 20 を上書きします。</p> <p><b>(注)</b> 特定のサービス インスタンスの一部として、または異なるサービス インスタンスとして設定されたポート上の encapsulation と rewrite の 2 つのコマンドに同じ SVLAN は使用できません。</p>
ステップ 10	<pre>encapsulation untagged</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# encapsulation untagged</p>	<p>二重追加モードでポートを設定します。</p> <p>タグなしパケットを照合するには、CVLAN を 0 になるように指定します。</p>
ステップ 11	<pre>rewrite ingress tag push dot1q &lt;multipurpose vlan&gt; second-dot1q &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# rewrite ingress tag push dot1q 10 second-dot1q 20</p>	<p>入力タグなしパケットに 2 つの SVLAN タグを追加します。</p> <p><b>(注)</b> ポート単位に encapsulation コマンドと rewrite コマンドのペアを 1 つだけ実行できます。</p> <p><b>(注)</b> このコンフィギュレーションがサポートされるのは、GE_XPE および 10 GE_XPE カードだけです。</p>
ステップ 12	<pre>encapsulation dot1q &lt;first cvlan&gt; &lt;last cvlan&gt;</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# encapsulation dot1q 9 9</p>	<p>VLAN ID 9 のタグ付きフレームを照合します。</p>
ステップ 13	<pre>rewrite ingress tag translate 1-to-1 &lt;multipurpose vlan&gt; push dot1q &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# rewrite ingress tag translate 1 25 push dot1 30</p>	<p>CVLAN タグを SVLAN タグ 25 に変換し、別の SVLAN タグ 30 を追加します。</p> <p><b>(注)</b> このコンフィギュレーションがサポートされるのは、GE_XPE および 10 GE_XPE カードだけです。</p>
ステップ 14	<pre>bridge-domain &lt;svlan&gt;</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# bridge-domain 10</p>	<p>SVLAN 10 にポートを追加します。</p>
ステップ 15	<pre>exit</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if-srv)# exit MSTP 176# (config-if)#</p>	<p>サービス インスタンス コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 16	<pre>exit</pre> <p><b>例 :</b> MSTP 176# (config-if)# exit MSTP-176(config)#</p>	<p>インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。</p>

コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 17</b> exit  <b>例：</b> MSTP-176(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## NTP-G282 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのチャンネルグループを設定する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのチャンネルグループを作成および設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** チャンネルグループを作成および設定するノードで [「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」\(P.B-2\) のタスク](#) を実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。
- 「DLP-G619 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのチャンネルグループを作成する」(P.B-25)
  - 「DLP-G620 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのチャンネルグループにポートを追加する」(P.B-26)
- ここでやめてください。この手順はこれで完了です。



# DLP-G619 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのチャンネルグループを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのチャンネルグループを作成する方法、およびチャンネルグループモードを変更する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) GE\_XP および GE\_XPE カードは最大 11 個のチャンネルグループ、10GE\_XP および 10GE\_XPE カードは最大 2 個のチャンネルグループを作成できます。

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<code>configure terminal</code>  例： MSTP 176# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<code>interface channel-group number</code>  例： MSTP 176(config)# <code>interface channel-group 7</code>	チャンネルグループを ID 7 で作成します。
<b>ステップ 3</b>	<code>interface channel-number</code>  例： MSTP 176#(config)# <code>interface 1</code> MSTP-176# <code>(config-if)#</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 4</b>	<code>mode chanlgrp-mode</code>  例： MSTP 176 (config-if)# <code>mode passive</code>	チャンネルグループモードをパッシブに設定します。
<b>ステップ 5</b>	<code>exit</code>  例： MSTP-176(config-if)# <code>exit</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## DLP-G620 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのチャンネルグループにポートを追加する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのチャンネルグループにポートを追加する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) GE\_XP および GE\_XPE カードのチャンネルグループには最大 8 個のポートを、10GE\_XP および 10GE\_XPE カードのチャンネルグループには最大 3 個のポートを割り当てることができます。

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	interface type port  例： MSTP 176# (config) interface giga 15 MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	channel-group port-number  例： MSTP 176 (config-if)# channel-group 1	チャンネルグループにポートを追加します。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

# NTP-G286 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの EFM を設定する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの EFM を設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCLI の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** EFM を設定するノードで [「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」\(P.B-2\) のタスク](#) を実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。
- [「DLP-G643 PCLI を使用して GE\\_XP、10GE\\_XP、GE\\_XPE、または 10GE\\_XPE カードの EFM をイネーブルにする」\(P.B-27\)](#)
  - [「DLP-G644 PCLI を使用して GE\\_XP、10GE\\_XP、GE\\_XPE、または 10GE\\_XPE カードの EFM モードを設定する」\(P.B-28\)](#)
- ここでやめてください。この手順はこれで完了です。

# DLP-G643 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの EFM をイネーブルにする

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの EFM をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) EFM は、インターフェイス上でイネーブルになります。

## ■ はじめる前に

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	interface type port  例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	ethernet oam mode efm_mode  例： MSTP 176 (config-if)# ethernet oam mode passive	インターフェイス上で EFM をイネーブルにします。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## DLP-G644 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの EFM モードを設定する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの EFM モードを設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(PB-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	interface type port  例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	ethernet oam mode efm-mode  例： MSTP 176 (config-if)# ethernet oam mode passive	EFM モードをパッシブに設定します。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## NTP-G284 PCL I を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの CFM を設定する

目的	この手順では、PCL I を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの CFM を設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCL I の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** CFM を設定するノードで [「NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス」\(P.B-2\) のタスク](#) を実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

## ■ はじめる前に

- 「DLP-G635 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの CFM をイネーブルにする」(P.B-30)
- 「DLP-G636 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのメンテナンス ドメインを作成する」(P.B-31)
- 「DLP-G637 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのメンテナンス中間ポイントを作成する」(P.B-31)
- 「DLP-G638 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのメンテナンス エンドポイントを作成する」(P.B-32)

ここでやめてください。この手順はこれで完了です。

## DLP-G635 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの CFM をイネーブルにする

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの CFM をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ethernet cfm ieee  例： MSTP 176(config)# ethernet cfm ieee	カードの CFM をイネーブルにします。
ステップ 3	exit  例： MSTP-176(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## DLP-G636 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのメンテナンス ドメインを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードのメンテナンス ドメインを作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ethernet cfm domain domain_name level level  例： MSTP 176 (config)# ethernet cfm domain test_domain level 4	特定のメンテナンス レベルでメンテナンス ドメインを作成します。
ステップ 3	exit  例： MSTP-176(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## DLP-G637 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのメンテナンス中間ポイントを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの Maintenance Intermediate Point (MIP; メンテナンス中間ポイント) を作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜

## ■ はじめる前に

オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	interface type port  例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	ethernet cfm mip level level vlan vlan  例： MSTP 176 (config-if)# ethernet cfm mip level 4 vlan 100	MIP を作成し、MIP パラメータを設定します。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## DLP-G638 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのメンテナンス エンド ポイントを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの Maintenance End Point (MEP; メンテナンス エンド ポイント) を作成する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	configure terminal  例： MSTP 176# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	interface type port  例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ステップ 3</b>	ethernet cfm mep domain domain_name mepid mepid vlan vlan  例： MSTP 176 (config-if)# ethernet cfm mep domain test_mep mepid 100 vlan 200	MEP を作成し、MEP パラメータを設定します。
<b>ステップ 4</b>	exit  例： MSTP-176(config-if)# exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
	ここでやめてください。この手順はこれで完了です。	—

## NTP-G288 PCL I を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの REP を設定する

目的	この手順では、PCL I を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの REP を設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上



(注) PCL I の詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』を参照してください。

- ステップ 1** REP を設定するノードで [「NTP-G222 PCL I テキスト インターフェイスへのアクセス」\(P.B-2\) のタスク](#) を実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて次のタスクを実行します。

## ■ はじめる前に

- 「DLP-G649 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのセグメントを作成する」(P.B-34)
- 「DLP-G650 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの STCN を設定する」(P.B-35)
- 「DLP-G651 PCLI を使用してプライマリ エッジ ポートのプリエンプト遅延を設定する」(P.B-36)
- 「DLP-G652 PCLI を使用してプライマリ エッジ ポートの VLAN ロード バランシングを設定する」(P.B-37)

ここでやめてください。この手順はこれで完了です。

## DLP-G649 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードのセグメントを作成する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの REP をイネーブルにする方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  例： MSTP 176# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface type port</code>  例： MSTP 176# (config) <code>interface giga 1</code> MSTP-176# (config-if)#	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>rep segment id edge primary</code>  例： MSTP 176# (config-if) <code>rep segment 10 edge primary</code>	ポートの REP をイネーブルにし、セグメント ID をポートに割り当てます。このコマンドは、ポートをプライマリ エッジ ポートとしても設定します。
ステップ 4	<code>rep segment id edge</code>  例： MSTP 176# (config-if) <code>rep segment 10 edge</code>	ポートをセカンダリ エッジ ポートとして設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<pre>rep segment id edge no-neighbor</pre> <p>例： MSTP 176# (config-if) rep segment 10 edge no-neighbor</p>	エッジポートはネイバーポートを持たないことを指定します。
ステップ 6	<pre>rep segment id preferred</pre> <p>例： MSTP 176# (config-if) rep segment 10 preferred</p>	エッジポートを優先代替ポートとして設定します。
ステップ 7	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if)# exit</p> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	<p>インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。</p> <p>—</p>

## DLP-G650 PCLI を使用して GE\_XP、10GE\_XP、GE\_XPE、または 10GE\_XPE カードの STCN を設定する

目的	この手順では、PCLI を使用して GE_XP、10GE_XP、GE_XPE、または 10GE_XPE カードの Segment Topology Change Notification (STCN; セグメント トポロジ変更通知) を設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>interface type port</pre> <p>例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if) #</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

## ■ はじめる前に

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<pre>rep stcn segment id</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# rep stcn segment 25</p>	特定のセグメントに REP STCN を送信するようにエッジポートを設定します。
ステップ 4	<pre>rep stcn interface id</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# rep stcn interface 10</p>	特定のインターフェイスに REP STCN を送信するようにエッジポートを設定します。
ステップ 5	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if)# exit</p> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
		—

## DLP-G651 PCLI を使用してプライマリ エッジポートのプリエンブト遅延を設定する

目的	この手順では、PCLI を使用してプライマリ エッジポートのプリエンブト時間遅延を設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

**ステップ 1** 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>interface type port</pre> <p>例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<pre>rep preempt delay seconds</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# rep preempt delay 100</p>	プライマリ エッジ ポートでプリエンプト時間遅延を 100 秒に設定します。
ステップ 4	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if)# exit</p> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	<p>インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。</p> <p>—</p>

## DLP-G652 PCLI を使用してプライマリ エッジ ポートの VLAN ロード バランシングを設定する

目的	この手順では、PCLI を使用してプライマリ エッジ ポートの VLAN ロード バランシングを設定する方法について説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">「NTP-G222 PCLI テキスト インターフェイスへのアクセス」(P.B-2) のタスク</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上

ステップ 1 必要に応じて次のタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal</pre> <p>例： MSTP 176# configure terminal</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>interface type port</pre> <p>例： MSTP 176# (config) interface giga 1 MSTP-176# (config-if)#</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<pre>rep block port id port_id vlan vlan_list</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# rep block port id 0X0080001647FB1780 vlan 1-100</p>	VLAN 1 ~ 100 をブロックするように代替ポートを設定します。

## ■ はじめる前に

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<pre>rep block port preferred vlan vlan_list</pre> <p>例： MSTP 176 (config-if)# rep block port preferred vlan 1-100</p>	優先ポートの VLAN ロード バランシングを設定します。
ステップ 5	<pre>exit</pre> <p>例： MSTP-176(config-if)# exit</p> <p>ここでやめてください。この手順はこれで完了です。</p>	<p>インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。</p> <p>—</p>